

社会政策学会 Newsletter

学会本部 大阪市立大学経済学部 玉井 金五気付 URL <http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/sssp/>
 Tel 06-6605-2275 Fax 06-6605-3066 E-mail tamai@econ.osaka-cu.ac.jp
 事務センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル (株)ワールドプランニング
 Tel 03-3431-3715 Fax 03-3431-3325 E-mail world@med.email.ne.jp

<目次>

1. 第 109 回大会開催校報告
2. 大会企画委員会より
3. 編集委員会より
4. 国際交流委員会報告
5. 学会賞選考委員会から
6. 日本学術会議報告
7. 幹事会議事録
8. 承認された新入会員
9. 本部からのお知らせ

1. 第109回大会開催校報告

第 109 回大会実行委員会

1 はじめに

社会政策学会の第 109 回大会は、26 年ぶりに大阪市立大学で 2004 年 10 月 16、17 日に開催された。両日とも快晴に恵まれただけでなく、おそらく秋の学会としては最高と思われる「343 人」の参加があった。春に東京で開催される大会での参加者数が 400 人前後であることを考えると、ほぼそれに匹敵する数字である。

学会が盛況になることは、実に喜ばしい限りである。しかも、年々若い研究者、院生の参加が目立つようになってきていることも、学会の活性化という観点で見ると、非常に重要な傾向であるといつてよいであろう。また、非会員の参加も増えてきており、ネット上での情報提供がかなり功を奏していると思われる。

2 大会に向けて始動

学会の準備は大体 1 年前からスタートした(実行委:玉井金五、服部良子、所道彦)。まずは、会場を押さえることである。大阪市立大学には 1996 年にオープンした学術情報総合センターがあり、設備、機能面からすれば最新のものを有している。まずこれを拠点にすることにした。ただし、近年分科会が増えてきているので、センター内の室数では十分でなかった。

そこで、もうひとつ会場を設定しなければならず、その点について時計台のある 1 号館か、もしくは完成したばかりの全学共通教育棟にするかで迷ったが、本学ではもっとも歴史と伝統を感じさせる 1 号館を選択した。20 世紀の「1 号館」と 21 世紀の「センター」という対照的な構図もいだろうと判断した次第である。

学会の準備といえば、かなりこまごまとしたことが多々ある。実は、この点に関して本学の生協が新しく学会の準備に関わるいくつかの部門を請け負うという事業を開始していたので、早速相談してみた。会場の看板や掲示物の作成、また弁当の用意、さらには懇親会といった類のことをすべて生協にお願いする方が効率的、かつ効果的と考え、依頼した。

結論からいえば、これは大正解であった。いわば一種の分業体制が確立したので、実行委はプログラムの作成をはじめとする他のことに集中できた。とくに、プログラムの構成は秋の企画委員会の阿部委員長が精力的に作業をしてくださった。企画委員会と実行委がうまく連携できたので、その後の印刷、8 月末の発送まで大体予定どおり進むことができた。

3 大会当日の様相

大会 1 週間まえから慌ただしくなりはじめたが、前日までに日々やるべきことを決め、それをいくつかの作業グループに分けて実行していったので、まずまずのところまでくることができていたのではないと思う。すなわち、大きく会場関係、参加者関係、会計関係といふ形で、責任分担したのがよかった。

大会 1 日目は順調にスタートした。会場が二つに分かれたので、できるだけその誘導に注意を払うようにした。とくに、1 日目は分科会が中心ということもあり、参加者の動きが最も激しくなる。二つの会場にすこし距離があつて心配したが、ほとんど問題は起こらなかった。しかも、好天が後押ししてくれた。

また、近年パワーポイント等の機器を使用することが増えてきている。今回もその準備に気を遣った。事前に、報告者に対して使用するのか否かの問い合わせを徹底したのもよかった。そのためか、当日突然使用したいという申し出のケースはなかった。こうしたことは、今後も徹底していった方がよい。

また、会場が参加者数に対して相応しいスペースであるかどうかにも、気を遣った。これも結論からいえば、会場が狭すぎて入れなくなるということは全くなかった。先の機器使用の事前把握とともに、会場と参加者数をいかに読み取るということも大事である。この二点については、うまくいったと思われる。

第 1 日目の夜に、学術情報総合センターの最上階において懇親会を開催した。約 150 名近くの参加があり、盛会であった。大阪市立大学の金児学長の挨拶に次ぎ、本学名誉教授の竹中恵美子会員に乾杯のご発声をいただいた。お約束どおり「大阪名物」のたこ焼きをご用意させていただいたが、大好評であった。

第 2 日目は共通論議だけであり、センターの大会議室のみを使用した。2 日目にもかかわらず参加者は多く、午前中に約 200 名、午後の総括討論のときにも 100-150 名の参加があり、会員の関心の高さを反映する会となった。しかも、報告者 4 人の全員がパワーポイントを使用しての報告を行ったことも、学会史上はじめてのことではないだろうか。

4 今後に向けて

今回の大会を担当するにあたって、これまでの開催校報告から学ばせていただいたり、また従来から引き継がれてきている関係資料を大いに参考、利用させていただいた。もっと

も、先に述べたように秋の大会としては非常に規模が大きかったので、行き届かなかったこともいくつかあった。この点は、ご容赦願うしかない。

おそらく、今後秋の大会もますます大規模化していくのではないと思われる。だとすれば、当然会場のスペースの確保や事前準備、大会当日の運営等で多くの人手がいることになり、開催校にそのための心構えが求められる。今回は、まず業務の分担において実行委と大学生協とでうまく調整できたことは大きかった。

また、本学は幸いなことに社会政策学会の会員が多く、しかも院生会員も一定数いるために人手の確保という点においては、比較的スムーズに運んだのではないと思う。さらに、大会1週間まえから当日まで院生やゼミ生が献身的な努力をしてくれたのも大きかった。学生にとっても、学会の全

国大会を経験できることは大いに意義がある。

なお、託児所の利用については、事前に場所、施設内容等の問い合わせがあったが、実際の利用には至らなかった。

いずれにしても、全日程を無事に終えてホッとしている。有難いことに、終了後何人かの会員から「いい大会であった」といってお褒めの言葉をいただいた。それまでの苦労と疲れが一気に吹き飛ばす瞬間である。

(文責 玉井金五)

2.大会企画委員会より

【春季大会企画委員会】

第110回春季大会

すでにニュースレター第2号でご案内しましたように、第110回大会(春季大会)は2005年5月28・29日に専修大学生田キャンパスにおいて開催されます。共通論題は「労働・生活時間の構造変化から見る社会政策 - 仕事と生活のバランスをめぐる -」(仮題)です。第110回大会のテーマ別分科会、自由論題の報告応募は、1月15日で締め切られました。

(文責 田中洋子)

【秋季大会企画委員会】

昨年10月に大阪市立大学で開催された第109回大会では、「少子化・家族・社会政策」というテーマで共通論題がもたれたほか、7つのテーマ別分科会、2つの書評分科会、5つの自由論題分科会が開かれた。研究報告の数も共通論題で4報告、テーマ別分科会では18報告、書評分科会が6報告、自由論題も18報告にのぼり、全体としては学会の活発な研究活動を示す大規模な大会となった。ただ、大会当日、一部でプログラムの変更があったり、準備不足と思われる分科会も見受けられた。企画委員会としては、今後の大会でこうしたこと

のないよう注意することにした。

ところで、今年の秋季大会(第111回大会)は、北海道部会のお世話により10月8～9日に北海道大学を会場として開催されることになっている。共通論題については、現在秋季大会企画委員会で検討しているところであり、いくつかのテーマがすでにあがっている。企画委員会では、大会での議論をより多いものにするために十分な準備時間をとって事前の議論の場を設けることを決めており、1月中には共通論題のテーマや報告者等を決め、4月と7月頃に事前の研究会を開くことを計画している。

共通論題のほかにも、テーマ別分科会や自由論題等も開くことにしている。テーマ別分科会や自由論題等の募集は、5月初旬から6月初旬を予定しており、多くの会員からの報告申し込みを期待している。また、書評分科会については従来のあり方を見直し、第109回大会では書評の対象となる本を絞るとともに充実した議論となるよう著者の出席も求めた。第111回大会での書評分科会のもち方は、今後企画委員会で検討することになるが、書評分科会のもち方についてご意見があれば、秋季大会企画委員長までお寄せいただきたい。

(文責 阿部 誠)

3.編集委員会より

『社会政策学会誌』第14号 自由投稿論文募集 1月20日必着

2005年9月刊行予定の『社会政策学会誌』第14号に掲載する投稿論文を募集しています。掲載ご希望の方は、2005年1月20日までにお送りください。投稿資格、投稿論文執筆要領やレフェリー 規程については、社会政策学会ホームページにてご確認ください。

投稿ご希望の方は、封筒に「社会政策学会誌 投稿論文在中」と朱書きのうえ、法律文化社編集部宛に簡易書留でお送りください。なお、送付先は学会本部(大阪市立大学)とは別の所ですので、ご注意ください。

【送付先】

〒603-8053 京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71

(株)法律文化社編集部

(担当 浜上 知子【はまがみ・ともこ】)

【問合せ先】

社会政策学会誌編集委員長 橋元 秀一

E-mail hsyu@kokugakuin.ac.jp

社会政策学会誌編集副委員長 乗杉 澄夫(秋季号編集責任者)

E-mail sumi-n@emily.eco.wakayama-u.ac.jp

4.国際交流委員会報告

去る2004年12月3日の9:30-17:00、ソウル市の韓国保健社会研究院において日韓の社会政策学会による共同シンポジウムが開催された。テーマは「高齢化社会における韓

国と日本の社会政策の比較」であった。韓国側からの招待に基づいて、日本側からは玉井金五代表幹事、埋橋孝文元国際交流小委員会委員、武川正吾国際交流委員長、朴光駿会員が参加した。午前中は、玉井会員が「日本社会政策の

展開とその構造的特質」のテーマで基調講演を行ったあと、第一部「日本の社会政策の現況と課題 改革方向」で、武川会員が「2004年の年金改革 福祉政治の生成とレジームシフト?」について、埋橋会員が「介護保険 2005年改正をめぐって 障害者支援費制度の統合と財政的持続可能性を中心に」について報告と討論を行った。午後の第二部では、元鍾旭韓国保健社会研究院研究委員が「国民年金制度の懸案と発展方案」について、金燦佑カトリック大学教授が「公的療養保障制度の争点と問題点に関する考察」についての

報告と討論を行った。

なお国際交流委員会では2005年の春季大会において、イギリス社会政策学会の重鎮マイケル・ヒル氏を招いて、国際交流分科会を開催する予定である。日韓の社会政策学会の協力関係の一環として、同氏は日本からの帰国時にソウルに立ち寄り、韓国社会政策学会でも講演を行う予定となっている。

(文責 武川正吾)

5. 学会賞選考委員会から

会員の皆様、2004年1月～12月に刊行された会員の著作をお知らせ下さい。

賞への推薦も、自薦他薦を問わず、受け付けます。

著作の把握同様、著作の入手にはそれ以上に骨が折れます。著者の方、御著書の寄贈をお願いいたします。

(選考委員長 日本女子大 高木郁朗まで)

6. 日本学術会議報告

松丸和夫 (同経済政策研連委員)

1. 現在、経済政策研連は、3つの小委員会< 産業の活性化と情報 環境と生活基盤小委員会 地域経済のネットワークと経済政策>にわかれて「対外報告」の作成準備に取り組んでいます。

2. 2004年度の研連主催シンポジウムを2005年3月8日(火)に日本学術会議講堂で「経済政策のニューエッジに挑む」というテーマで開催することが決まりました。研連として最後の企画となるので、研連参加の学協会から一定人数の参加者数を求めることが決まりました。内容は、プログラム企画委員会で準備中ですが、3つの対外報告小委員会報告をベースに構成する予定です。

3. 科研費の時限付き分科細目の提案について、第3部で2つ以上の提案はできないので、当研連の提案が通らないこともあるが、「リスク・コミュニケーションと政策評価」という案が承認されました。

4. 科学研究費審査委員の選出方法が来年度より変わります。従来の研連からの推薦にもとづき委嘱ではなく、2005年度に関しては、研連に対して審査委員の候補にふさわしい研究者の「情報提供」がもとめられ、しかも行政側としてその情報提供に縛られることなく審査委員を任命できることになりました。来年2月を期限として、科研費審査委員の候補者情報が募集されているので、当学会としても積極的に推薦していく必要があります。

7. 幹事会議事録

【第4回幹事会議事録】

(1) 名称 社会政策学会 2004年--2006年期
(2) 日時 2004年9月25日(土)午後2時～5時
(3) 場所 東京大学経済学部棟 12F 第二共同研究室
(4) 出席 阿部、木本、菅沼、武川、田中、玉井、乗杉、橋元、橋本、服部、兵頭、室住、森、山本、伊藤
欠席 大沢、熊沢、伍賀、佐口、猿田、竹内、富田、野村、松丸、宮本

(5) 議題

1. 新入会員承認
9名の新入会員を承認した

2. 秋季大会企画委員会報告

(1) 阿部委員長より109回大会に向けての経過報告がなされた。それとともに、自由論題報告者への連絡に際して報告に当たっては、既発表の研究にとどまらず新しい論点を含むように留意」とのお願いをしたとの報告があった。

(2) 今後の秋季大会の予定としては、111回大会は北海道大学で2005年10月8,9日に開催する、また2006年秋の113

回大会は大分大学で開催するところまで決定したこと、その後の2007年以降は未定との報告があった。

(3) 111回大会に向けての準備状況報告があった。

(4) 書評分科会の今後の持ち方について意見交換した。

3. 109回大会開催校報告

(1) 事前振込み割引のことがプログラムに明示されていなかったため、その対応の仕方について意見交換した。

(2) 開催にかかわる事務連絡(出席予定状況等)があった。

4. 春季大会企画委員会報告

田中委員長より110回大会の共通論題の企画案紹介があった。

(1) テーマ「労働・生活時間の構造変化から見る社会政策」

(2) 共通論題の報告者4名(齋藤修、水野谷武志、濱口桂一郎、久本憲夫)とコメンテーター1名(熊沢誠)が決定された。

5. 110回大会について

兵頭幹事より110回大会は2005年5月28,29日に専

修大学 生田キャンパスで開催するとの報告があった。大会開催校の引き継ぎ体制の整備については、今後さらにツメていくことにした。

6. 編集委員会報告

橋元委員長より 委員長の報告書に基づいて編集作業の進捗状況と内容が報告された。

また、欧文ページ構成に関する取り扱い方法と今後の対応について協議を行った。

7. 国際交流委員会

(1) 武川委員長より 国際交流委員間のメーリングリストによって意見交換した結果、来年の春以降に国際交流促進の具体化を図っていくことで一致をみたとの報告があった。

(2) 韓国社会政策学会から、2004年12月にソウルで韓日社会政策学会国際交流シンポジウムを開催するので、日本の社会政策学会からは、玉井、武川、埋橋、朴の4名を招聘したい旨の申し出があったことが報告され、承認された。

(3) 国際交流委員会にも旅費規程の適用について検討してほしい旨、申し出があった。

8. ホームページ担当報告

橋本幹事より ホームページ充実のための体制を順次整えていきたいとの報告があった。

9. 学会賞選考委員会

第1回委員会は109回大会時に開催し、委員長を選出する旨の報告があった。

10. 旅費について

玉井代表幹事から旅費申請書の様式等について再度提示があり承認された。なお、分科会における非会員報告者への交通費等支払いの取り扱いについては、部会活動費範囲内(年5万円)とすることが確認された。

11. 日本学術会議関係

今後の日本学術会議とのかかわり方について意見交換が行われた。

12. ニュースレターについて

次号については、109回大会まえに刊行する予定であることが報告された。

13. その他

(1) 学会事務委託、および学会の預かり金管理のあり方等について意見交換した。

(2) 次回幹事会は2004年10月15日(金)に開催することが決定された。

8. 承認された新入会員

氏名	所属	専攻	推薦者
<10月15日の第5回幹事会で承認(2名)>			
石田路子	宇部フロンティア大学人間社会学部	社会保障・社会福祉 ジェンダー・女性 生活 家族	堀内隆治 工藤隆治
村井 淳	日本大学大学院商学研究科後期課程	労使関係 労働経済	平澤克彦 平沼 高
<10月16日の第6回幹事会で承認(2名)>			
安田 均	山形大学人文学部	その他	木村武司 首藤若菜
長谷川千春	京都大学大学院経済学研究科院生	社会保障 社会福祉	久本憲夫 吉田健三
<10月17日の第7回幹事会で承認(1名)>			
川島章平	東京大学大学院総合文化研究科院生	社会保障・社会福祉	武川正吾 玉井金五

9. 本部からのお知らせ

1 新刊『学会名簿』(2004年11月)が刊行されました。今回の刊行のまえに各会員宛に住所等の確認票をお送りし、それに基づきまして作成しています。その後の変更や修正すべき点がありましたら、<学会事務センター>までご連絡ください。

2 平成16年度の部会活動につきましては、2005年2月末までに活動報告書の提出とともに、経費の実費請求(年間5万円以内)を行ってください。そのさいに領収証も添付してください。これらの送り先は<学会本部>です。

3 緊急のご案内等は学会ホームページを利用する形での掲載も随時行っていますので、学会ホームページも積極的にご活用ください。

4 次回のニュースレターの刊行は、2005年4月の予定です。既刊行分、もしくは今後の刊行につきましてご意見等ありましたらお寄せください。